

二〇二五年九月一三日

夜長月山家の闇の深さかな  
鋤先に纏はりあそぶ秋の蝶  
さわさわと風の翼か稲穂波

澄子  
よし女  
澄子

二〇二五年九月一二日

すすき原分けて出でし猫車  
新涼や帯に惹かれて新刊書  
斯く高く斯く青き空今朝の秋  
録り置きビデオに耽る夜長かな

明日香  
せいじ  
たか子  
こすもす

二〇二五年九月二一日

臍長けし白寿の面や菊日和  
どの門も菊の鉢置く屋敷町  
これよりは牧場への径吾亦紅  
電車いま谷戸の稲田に傾きぬ  
焼き秋刀魚選びし皿はながしかく

澄子  
澄子  
むべ  
むべ  
せいじ  
もとこ

二〇二五年九月一〇日

無音界なる黄落の朝の森  
生かされて百寿を賜ふ今朝の秋  
存問子手土産といふ今年米  
菊の賀や百寿に賜ふ銀の杯  
店先の面積占むる大西瓜

むべ  
董雨  
よし女  
董雨  
山椒

二〇二五年九月九日

残暑なほ引き籠る日々持て余す  
飛び石に庭下駄すべる白露かな  
と見る間に富士の全容霧襖  
叡山も隠れし闇に望の月

やよい  
なつき  
澄子  
もとこ

二〇二五年九月八日

ただ無為に佇みをれば桐一葉  
愛唱の詩篇誦しつつ花野ゆく  
避暑山家篠突く雨に寧からず

よし女  
せいじ  
澄子

二〇二五年九月七日

溪谷の奈落に出会ふ一瀑布  
秋暑しとて亀石も眼を閉ずる  
うそ寒し医師はデーター見るばかり  
力石にて曲がりたる蟻の道  
力石狗尾草に隠れけり

澄子  
明日香  
もとこ  
和繁  
和繁

毎日句会みのる選・二〇二五年九月一五日